

Title	アントレプレナールに着目したベンチャーキャピタルの投資パフォーマンスについて
Sub Title	
Author	石川, 幸(Ishikawa, Kou) 岡田, 正大
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2007
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2007年度経営学 第2197号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002007-2197

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	岡田正大 研究会	学籍番号	80630039	氏名	石川 幸
(論文題名)					
アントレプレナールに着目したベンチャーキャピタルの投資パフォーマンスについて					
(内容の要旨)					
1. 目的					
本研究はベンチャーキャピタル（以下、VC と略す）の投資パフォーマンスに関するいち考察である。本研究の目的は、アーリーステージ（スタートアップも含む）にあるベンチャー企業に対する VC の投資選別基準として、アントレプレナール（アントレプレナーの行動特性）に着目したスクリーニングによって、VC の投資パフォーマンスが良くなるか否かである。					
2. 仮説					
本研究の仮説は、創業者の行動特性（アントレプレナール）に焦点を絞った初期検討を VC が行うことで投資パフォーマンスが有意に良好である、ということである。					
同時に、アントレプレナールという人的側面に比重を置いたスクリーニングを行うのか、それ以外の項目に比重を置いたスクリーニングを行うのかという二軸での比較も検討を行った。					
3. 検証結果					
インタビュー調査において肯定的な結論も得られたが、アンケート調査において統計的有意性については完全には検証されなかった。アンケート調査でアントレプレナールに着目した回答者はいずれもポジティブの投資パフォーマンスを示した点で統計的な有意を示したものの、回答した母集団との差の検定においては統計的な有意性は見られなかった。なお、インタビューにおいては、絶対的な検討因子として扱う VC が見られた。すなわち、他の要因において如何に優れているよりも創業者がネガティブな評価である場合には投資プロセスを前進させないというもの。					
4. 研究の限界					
遠い因果関係である仮説であること、データの網羅性、必ずしも信頼性の高い検証ができなかった点において多くの限界があった。また、アントレプレナールの重要性について細分化し、更に有益な仮説を導出できなかった点で課題が残った。					
5. 結論					
アントレプレナールに着目したスクリーニングの重要性やその解釈において、一部のベンチャーキャピタルリストによって仮説を支持・補完する意見を得ることが出来た。また、重要な因子であることは確認できた。インタビューにおいて顕著であった課題として、その重要性の意義や意思決定における優劣や比重は一律でないことが伺えた。その後の洞察として、VC が投資の意思決定プロセスにおいて、アントレプレナールをリアルオプション的な不確定要素として扱わざるを得ず、かつ、この不確定要素を甘く見ると優れた意思決定プロセスにならないであろうことを実感するに至った。					